令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0470500372		
法人名	(有)村伝		
事業所名	グループホーム村伝		
所在地	宮城県気仙沼市八日町2-3-5		
自己評価作成日	令和　4　年　10　月　14　日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和　4年　11月　15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム村伝は、市役所から100mほど離れた中心部にあり近隣には商店や病院、公園など恵まれた環境にあります。それらの地域財を活かしながら、いままでの暮らしと変わらない生活を目指しております。地域の皆様に気軽に声を掛けて頂けるよう繋がりが見られています。振興組合に加盟しておりコロナ渦ですが災害時の情報など地域と共に学んでおります。入居者様が穏やかに、役割を持って一日、一日を過ごせるように職員も同じ目線で支援が出来ています。ホームの特徴は柔軟な発想を持って尊厳を忘れず利用者様の気持ちを受け入れ、理解する事を第一に考えて敬意を持って支援しています。利用者さんは、自分らしく暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム理念の「あんべいい」や「自分の力でいつまでも楽しく一緒に支え会うべね、地域、家族を大切にすっぺしね」等の表現部分は、地域の言葉で温かみがあり、ケアへの思い等を踏まえ継続とした。入浴の際、湯加減を聞くと「あんべいい」と笑顔で話される等、入居者に馴染んでいる。今年の5月、県が公表した津波浸水想定を受けた。市内の介護事業者等による防災研修会で、モデル施設として作成した「村伝避難確保計画」の概要を説明した。家族から寄贈された巣箱を中庭に設置し、巣作りや親鳥がヒナに餌を運んでる様子を皆で眺め、「今、ほら、中に入ったよ～」など自然を感じることができる支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム村伝　)「ユニット名　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ホーム理念を管理者も含め申し送りで唱和し周知できています。施設内には、4か所理念が掲示されており、仕事中にも目にしながら視野を広げて仕事が出来ています。	ホーム理念「あんべいい」は、入居者の穏やかな表情から、自立支援の大切さと入居者に馴染んでいることから継続とした。業務に入る前に唱和することで、気持ちの切り替えとケアの方向性を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の振興組合に加盟しており、地域の情報共有が出来ています。馴染みの商店の前を散歩すると気軽に声を掛け合い交流しています。コロナ渦で現在は近隣のイベントがなくなっています再開の際には、案内を頂く予定です。	町内会から配られた花の苗を、玄関前に植えている。振興組合から行事ポスターの依頼を受け掲示するなど協力関係にある。近くの神社の掃除に参加している。町内会の秋祭りに入居者全員で参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に開催している運営推進会議出席者にホームでの支援方法などお話しする機会で認知症ケアの実践をお話しさせて頂いています。入居申し込みの際でも声掛け方法などお話ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策など衛生、環境面での助言を頂いたり、日常の継続出来る事の大切さをお話し下さいます。最近では、否定せず個性を活かす接し方を継続して欲しいと助言下さいました。	ホームから暮らしの状況や行事報告、事故報告等を報告している。メンバーから避難経路の危険個所の助言があり、経路変更をする等運営に活かしている。個別支援計画や地域の介護事情等の意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で、入居者様のパーキンソン病症状から移動方法について相談させて頂くと情報提供頂き気仙沼保健事務所PTが、来所され介護技術を学ぶことが出来、協力体制が継続出来ている。	市へコロナ感染症対策を相談し、市立病院の看護師講師による研修会を開催した。市の助言を受け、迅速な避難に向けた「避難確保計画」を作成した。認知症ケアの関わり方について、事例を通し意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催を続け、毎月のカンファレンスでも全職員にも具体的な事例で、虐待の背景、チームケアで防げる事を話合っています。自分のホームでは？と、考える事として実践しています。意識付けが習慣になるよう委員を中心に取り組んでいます。	身体拘束の起こり得る背景などの動画を視聴し、意見交換している。認知症ケアの基本を意識し、入居者の不安や言動等、心理症状に対応できるよう取り組んでいる。帰宅願望は、気晴らししたい思い等を汲み取り、行動制限することなく、散歩等で対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の定義、通報、種類など細やかな内容を深く研修を重ねています。自分のホームは大丈夫が一番危険の意識も定着しています	外傷やあざ等を記録と写真で確認し、身体的虐待防止に努めている。暴言や言葉による抑制等、これくらいは大丈夫という不適切なケアが虐待につながることを職員は意識し、心理的虐待防止に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者さんでマモリーブさんを利用されている利用者さんがおりますので学ぶ機会にしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、家族、本人の環境が変わり入居準備など多忙になりがちですので無理のない日程を計画して契約内容を説明しております。入居されてからも面会時などで契約内容についての質問も受けられる環境を作っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通院、面会時にご家族様に玄関先で受診に必要な生活の様子を話すことが多いので、その機会で家族からの要望を伺い、ホームでの取り組みに活かしております。家族心情にも理解しながらこちらから歩み寄る姿勢で対応しています。	寝たきりになりたくない、いつまでも歩きたい等の要望は、生活に合わせた活動やリハビリ体操等にを反映させている。反映したケアは、記録に残し家族へ伝えると共に、ミーティングや連絡ノートで職員間で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の夜勤者から日勤の申し送りの中から改善点など提案が聞かれます。ホーム内の設備、備品など職員の意見を取り入れやすく心懸けています。「自分たちで作る職場環境」を実践しています。連絡ノート作成してます	提案様式を作成する意見は、意見や提案しやすい様式を作り使用している。ウッドデッキ用の座布団やひざ掛け、タブレットをテレビにつなげるケーブル購入などの提案は、直ぐに購入しサービスの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、他事業所との連携を積極的に図っておられ月8回は、管理者と意見交換が出来ており前向きに相談が出来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スキルアップのための情報提供などをして下さりシフト制の勤務体系の中でも研修参加をバックアップして下さる姿勢があり継続出来ています。認知症介護の大変さを共感して下さっています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の県研修の案内が、あれば情報提供して下さりサービス向上に繋がると、理解して下さっております。コロナ渦が続いていますのでZOOM研修が多いです。（BCP研修参加等）	気仙沼市立病院地域医療連携室と入院や退院等の情報交換をしている。ケアマネ協会気仙沼支部開催のコロナ感染症の対応等の勉強会に参加した。福祉用具貸与事業所からレンタルについて情報を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を検討している段階から早めにホーム見学をして頂き、その後は自宅に訪問させて頂き関係を構築しながらどんな生活を送りたいのか？心配な事などは、自宅で伺っております。ホームでの理念なども分かりやすくお話ししております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こんな事を言うと、不利になるかも･･と家族様は、遠慮される事がおおく見られます。共に生活させて頂く事をお伝えして、些細な事も大切な要望として聞かせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期では、今までの生活習慣に合わせて本人のペースを尊重しております。入居者様が話しやすい環境を第一にしています。職員全員が情報共有しやすいように特記ノートで、発した言葉、好みの物など記入しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンス、理念などで検討しております。 本人の意向聞き、自己決定を心がけ利用者様からお茶を入れて頂いたり、季節の行事、草花の手入れなど職員が入居者さまより教えて頂いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎朝の申し送りの場で、管理者が家族の意向などを職員に伝え、職員の支援の振り返りを、行っています。結果、家族の気持ちも考慮した上で　利用者様にどう接して良いかを、管理者と考え支援方法を確認、関係作りを築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に馴染みの店がある利用者様がおられ買い物に行ったり、店に立ち寄る許可も頂き関係を継続出来ていましたがコロナ渦で、中止しています。友人宅にホームで送り迎えを行い過ごす事も大切にしていました。	家族や娘夫婦、孫、入居前の近所の友人が面会に来訪している。テレビ電話で面会する方もいる。行きつけの美容室で、知人に出会い会話している。ドライブは、馴染みの気仙沼地域であるため喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関係性を考慮しながら席替えを必要時、行っています。最近では同じテーブルの2人に毛糸で帽子を編んで下さる利用者さんがおりました。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院され退居された利用者様、家族様がおりますが安心した施設に入れるまで病院、施設と連携を図り家族様からその都度、報告を頂いています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリング・評価をリーダー職員中心に行っており希望、意向はすぐ実践している、個別でお話を伺うことも継続している。化粧品の相談、編み物の相談など受けている。	個々の思いや生活歴を汲み取り、家事や趣味等の実現に努めている。化粧品や編み物の要望は、家族と相談し実現している。思いを実現するため、家族の協力を得ながら、生き生きとした暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、アセスメント151を利用して今までの生活歴、社会との関わり、介護サービス利用内容など伺い、ホームの役割、活動に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、早番さんが中心に生活の様子、身体能力の把握を行い管理者も共有させて頂いている。最近では、9人分のおやつの食器洗いをして下さる方や、草取りならお任せの入居者様もいる		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで全員で2名のモニタリング～課題分析、ケアプランの原案を話し合っています。	個々の現有能力を活かし家事や趣味、身体機能の維持等、現状に即した援助内容となっている。「転ばないで歩きたい」は、歩行訓練を盛り込み、カレンダーに達成シールを貼り、日課として盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に管理者が必要書類は確認しています。特記事項、申し送りカード2種類を利用して体調変化、BPSDの原因などに活用しています。ヒヤリハットも先回りの気づきとして活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員には、変化を恐れず、既存に捉われず何が必要か、誰が困っているか等を考えて行動できるよう考える指導をしています。昼食の下膳は介助した方が、早く合理的ですが、本人の力を発揮出来るよう見守りの実践を行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで過ごす毎日だけでは、生活の楽しみ、生きる力が乏しくなります。地域資源が近所にあり恵まれている環境なので感染対策を講じながら散歩、外気浴で五感に働き掛けています。野菜販売、花を見つけたり散歩距離が延びました		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療支援を継続して受けられるように、家族などと十分に話し合い対応しています。 実際にさまざまな医療機関を利用して暮らしている方々がおられます。認知症専門医の相談時には手紙、受診同行したりしております。	入居後専門医に変更した1名を除き、入居前からのかかりつけ医を利用している。通院は原則として、家族が付き添っている。受診の際は、医療連携シート等を持参している。受診経過や結果は記録に残し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のホーム看護師には、最新検査結果、排便状況、皮膚状態も相談した上で、医療専門知見を頂き、対応が出来ている。24時間相談連絡可能なので適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	気仙沼医入院の際には、相談員、看護師さんには、早めに挨拶、相談するようにしています。利用者様には、認知機能が低下しないように早期退院介入を速やかに行っています。受け入れる職員にも情報を早めにしています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込みの段階で、必ず説明をさせて頂いています。その時の状況、家族関係がさまざまなので、かかりつけ医からの方針もあるので早めに支援に取り組んでいます。	「重度化対応に関する指針」に基づき、終末期に医師、看護師から看取りの考え方を説明している。ホームでの看取りを希望する場合は、同意を得て看取り介護計画を作成し実施している。医療機関等に入院を希望される場合は、入院に向けた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	尻餅、転倒など事故報告で、対応が実践出来るように全職員に報告書で共有している。実際の居室での場面で、想像ではなく自ら再現して対応を身につけています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の方と連携も出来ています。職員は勤務年数が浅い人、他県出身が多いので今後も継続が必要です。大津波・停電、土砂崩れなど想定しています	夜間想定を含む年2回の避難訓練をしている。地区会長等の参加があり、避難誘導等を依頼した。消防署員から避難場所は、1次と2次に分けて2段階で移動するよう助言があった。津波想定は、机上訓練を実施した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けにならないように虐待、身体拘束委員会で話あって全職員にも共有しています。 トイレ介助は羞恥心に配慮した対応しています。入浴時、訪室の際のノックなどには、気をつけております。	不適切なケアにならないよう、名前を呼んでから受け答えする姿勢を心がけている。「あとでね～」など制限する言葉や命令口調に気をつけている。個々の出来ることを大切に、尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室を訪問した際には、気持ちを話して頂けるようにオープン、クローズクエスチョンを使い、良い話を広げたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりと、充実した一日が送れるように支援しています。お天気が良い日はドライブに行ったり、散歩したり希望を伺い、洞察力で先回り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが継続出来るように「エステの日」を設けマッサージ、パックなど好評でした。マニュキュアなど希望の方に支援したり行事ではお化粧しておめかししています、今では就寝前に顔のマッサージをされる方もおります。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り、煮物の野菜カットなどお手伝いを頂いております。食事の彩り、盛り付けなども利用者さんに相談しながら進めております。	食材の買い物に職員と一緒に出かけている。月見はさつま芋ご飯、敬老会は赤飯、秋はさんま焼き等、季節を楽しむ工夫をしている。個々が梅干しや海苔など好きな具材で、おにぎりを握り食べる楽しみを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	数人の方は、水分(量を数値化して脱水にならないようにしています。食事量が少ない人は一口おにぎりを冷凍して数回に分けて提供しています。食事形態も柔らかめ、刻みにして気をつけております。夜間の水分補給も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを一日3回行う支援を続けています。嚥下体操も食事前に行い美味しく食事が出来るように支援しています。歯磨きに興味がない人には個別にお手伝いしながら舌苔も、観察しております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で排泄出来るかたは、継続できるような声掛け工夫しています。介助が必要な方でも便の拭き上げのみ介助、排尿時は自分で拭く事など個別で対応、支援して可能な限り自立を促しております。	排泄間隔や生活習慣を基に、自立や見守り、声掛けで、出来ないことを支える自立支援に努めている。排泄周期に合わせた声掛け等で、失禁が減り自信を取り戻した例もある。夜間は個々に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の積み重ねを大切に、毎朝ヨーグルト、牛乳を飲んで頂いています。便秘薬に頼らず散歩、　運動、腹部マッサージ、入浴など個別の趣向を考慮して対応しています。最近では腹部を温めたり取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	現在は入浴拒否の方がいません。喜んで入浴して頂けるように入浴剤を選んで頂いたり、本人から希望があった際には、応じるようにしています。記憶保持が可能な方は、自分のカレンダーに入浴日を記入しております。	個々の希望や生活習慣に応じて、熱めの湯やぬるま湯など、好みの湯加減でゆっくり入浴している。入浴剤は2種類から選んで、気持よく入浴できるよう工夫している。自分で着替えを準備し持ってくる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠傾向な時は、リラックス出来る音楽を流して支援しています。無理に就寝せず傾聴してから、麦茶なども飲んで頂いています。安心して寝られるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には、3回確認が出来るようにしています。服薬効果が強い場合は、主治医に相談させて頂いたり、処方薬剤師さんに相談しています。現在精神薬3種類の減薬に成功してADL改善した方もおります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、取り組んでいます。編み物、塗り絵、歩行訓練、個々に合わせた気分転換が出来るように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染しながら天気が良い日のドライブは多く取り入れている。夕方近所の野菜直販店に行き旬な野菜の詰め放題、店員さんとの何気ない会話、交流が良好です。近所のお宅にも伺う事もあります。	希望に応じて、ホーム向かいの公園などを散歩している。唐桑の御崎神社や赤坂公衆園の紫陽花、気仙沼港から出船する秋刀魚船を見に出かけている。ウッドデッキでシャボン玉を飛ばしながら、外気欲を楽しんでいる。家族とのドライブや選挙に出掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数ではありますが病院、タクシーの支払い、　イオンでの買い物の支払いをご自分で行う方がおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ渦で面会出来ないので手紙で家族から毎週お手紙を頂ける方もいます。ホームからも年賀状、暑中見舞いを、直筆で出したり、敬老会でも全員に家族様よりお手紙を頂きました。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには昭和初期のカレンダー、ポスターを掲示しています。手作り日めくりカレンダーも好評ですウットデッキから日差しを入れガーデニングも行っています。ヒーリングも続けています。	玄関を入ると気軽に使用できる交流ホールがある。リビング兼食堂は、お茶飲みで談笑したり、七夕、塗り絵の作品作り等、和やかに過ごす場となっている。一角に小上がりの和室があり、昔の本や独楽、遊具等が置かれ、ゆっくり過ごしてもらう等の工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士で話が出来るように配置にしてリビングで過ごして頂いています。昼休みは、思い思いに過ごせるように座る場所を設置してリラックスしたい際には、ウットデッキを利用しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所準備の説明から、馴染みの物、時計、身に着けるものなど持ち込んで頂いています。昭和初期のアルバムの切り抜き、好みの人形などで自分の部屋で寛いで頂いています。最近は抱きぬいぐるみがお気に入りの方がいます。	慣れ親しんだ衣装ケースや座椅子、位牌、遺影等を持ち込んでいる。生活習慣を大切に、見慣れたものに囲まれた居心地のよい居室作りをしている。塗り絵や編み物、レース編みする等、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内を、大きな字で利用者さんの目線に合わせ表示しています。「何時でも相談ください」の案内も職員席に作り穏やかに安全に工夫しています。生活の流れのポスターもテーブルに準備して自立できる支援をしています		